

生田緑地におけるラン科植物の記録

白澤光代*・佐藤登喜子*・高中健一郎**

Record Orchidaceae in Ikuta Ryokuchi Park, Kawasaki City.

Mitsuyo Shirasawa*, Tokiko Sato* and Kenichiro Takanaka**

はじめに

神奈川県内では、ラン科植物 43 属 93 種の記録があり、42 属 86 種が現存している(神奈川県植物誌調査会編, 2018)。また、神奈川県レッドデータブック 2022 (田中ほか, 2022) では 78 種について絶滅危惧種等の指定がされ、そのうち 8 種が絶滅に指定されているという状況にある。

一方、生田緑地は川崎市多摩区と宮前区にまたがる多摩丘陵の一角に位置し、周囲を市街地に囲われており、緑地の利用者も多い。著者らは、生田緑地で観察を続けて 15 年ほどになるが、その間に新しく確認できたラン科植物も数種あり、その中には、神奈川県レッドデータブック 2022 (田中ほか, 2022) での記載種も含まれている。種によつては、生息数が少なく、安定的に生息できていない種もあるが、本稿で公表することで、県内のラン科植物の分布状況を把握することに寄与できると考え、生田緑地での生息記録として、ここに報告する。なお、都公園では植物が盗掘の被害にあうことがあるため (倉本, 1983; 大澤・勝野, 1999)、生息地に繋がるような詳細地名は記載しない。

材料および方法

観察記録を行った生田緑地は、川崎市多摩区と宮前区にまたがる緑地で、多摩丘陵の一角に位置する。面積は 179.3ha で、主にクヌギ *Quercus acutissima* Carruth.、コナラ *Q. serrata* Murray を中心とした雑木林や谷戸部の湿地、湧水等の自然環境で構成されている。種の同定、学名および掲載順については、神奈川県植物誌 2018 (神奈川県植物誌調査会, 2018) に準じた。

観察記録

ツレサギソウ属 *Platanthera* Rich.
オオバノトンボソウ *Platanthera minor* (Miq.) Rchb.f.

本種については、神奈川県のレッドデータ 2022 (田中ほか, 2022) での指定はないが、神奈川県植物誌 2018 (神奈川県植物誌調査会編, 2018) では、神奈川県内のシイ・カシ帶～ブナ帶下部に広く分布するがやや稀とされる。多年草であり、生田緑地においても毎年ほぼ同所的に生息すると考えていたが、2023 年には昨年に確認できた場所で全く確認できなかつた場所があつた。また、一部では蕾まで確認できたものの、開花が確認できなかつたケースも見られた。



図 1. オオバノトンボソウ *Platanthera minor* (Miq.) Rchb.f.

キンラン属 *Cephalanthera* Rich.

キンラン *Cephalanthera falcata* (Thunb.) Blume

本種は、神奈川県レッドデータ生物報告書 2006 (勝山ほか, 2006) では絶滅危惧 II 類に指定されていたが、神奈川県のレッドデータ 2022 (田中ほか, 2022) では、近年、里山の環境管理の成果として休眠株が復活したり、個体数が増加したりする事例が多く、確認調査区数が増加傾向にあるとされ、準絶滅危惧種に指定されている。生田緑地で

*特定非営利活動法人 かわさき自然調査団

Kawasaki Organization for Nature Research and Conservation

**川崎市青少年科学館 (かわさき宙と緑の科学館) Kawasaki Municipal Science Museum

は比較的多くの場所で生息しているが、実が出来ることは稀である。



図2. キンラン *Cephalanthera falcata* (Thunb.) Blume

ササバギンラン *Cephalanthera longibracteata* Blume

本種については、神奈川県のレッドデータ 2022 (田中ほか, 2022) での指定はないが、神奈川県植物誌 2018 (神奈川県植物誌調査会編, 2018) では、県内のシイ・カシ帯～ブナ帯に点在するが少ないとされている。生田緑地では毎年 1 株だけ生息する場所と小さな群生地となる場所があり、種も確認できているが、生息数は極めて少ない。



図3. ササバギンラン *Cephalanthera longibracteata* Blume

ギンラン *Cephalanthera erecta* (Thunb.) Blume

本種は、神奈川県のレッドデータ 2022 (田中ほか, 2022) での指定はないが、神奈川県植物誌 2018 (神奈川県植物誌調査会編, 2018) では、県内ではシイ・カシ帯～ブナ帯に広く点在するが少ないとされる。

生田緑地では、数年前からクヌギの周りに群生するようになった。キンランと比べ、

ほぼ実が出来るが、実が割れているのを見たことはなく冬になっても実が残っている。



図4. ギンラン *Cephalanthera erecta* (Thunb.) Blume

クゲヌマラン *Cephalanthera longifolia* (L.) Fritsch

本種は、神奈川県レッドデータ生物報告書 2006 (勝山ほか, 2006) では絶滅危惧 II 類とされていたが、神奈川県のレッドデータ 2022 (田中ほか, 2022) ではクゲヌマランは植栽木に付随する移入の可能性もあるとされ、対象外となっている。生田緑地では、数年前から点在的に出現するようになった。



図5. クゲヌマラン *Cephalanthera longifolia* (L.) Fritsch; C. shizuoii F.Mak., Iconogr. Pl. Orient.

ツチアケビ属 *Cyrtosia* Blume

ツチアケビ *Cyrtosia septentrionalis* (Rchb.f.) Garay

腐生ランである本種は、神奈川県のレッドデータ 2022 (田中ほか, 2022) での指定は

ないが、神奈川県植物誌 2018 (神奈川県植物誌調査会編, 2018) では、県内では点在するが少ないとされている。生田緑地での生息数は少なく、2013 年から見られ、ほぼ 3 年間隔で同所に生息している。



図 6. ツチアケビ *Cyrtosia septentrionalis* (Rchb.f.) Garay

ムヨウラン属 *Lecanorchis* Blume
トサノクロムヨウラン *Lecanorchis nigricans* Honda var. *patipetala* Y.Suwa
本種は、神奈川県のレッドデータ 2022 (田中ほか, 2022) で準絶滅危惧種に指定され、県内では少ないとされている (神奈川県植物誌調査会編, 2018)。本種については、これまでクロムヨウラン *L. nigricans* var. *nigricans* とされていたが、県下のクロムヨウランは開花するため、トサノクロムヨウランとして扱われている。腐生ランであり、生田緑地では 2015 年の時点で記録はなく (吉田ほか, 2016)、2020 年から記録されており、日の出と共に開花し、9 時頃には閉じてしまう。



図 7. トサノクロムヨウラン *Lecanorchis nigricans* Honda var. *patipetala* Y.Suwa

トラキチラン属 *Epipogium* J.F.Gmel. ex Borkh.

タシロラン *Epipogium roseum* (D.Don) Lindl.

腐生ランの本種については、神奈川県のレッドデータ 2022 (田中ほか, 2022) での指定はなく、神奈川県植物誌 2018 (神奈川県植物誌調査会編, 2018) では、全県下に分布域が広がり普通種となつたが盛衰が激しいとされている。生田緑地では、近年激減し、かろうじて生息している。



図 8. タシロラン *Epipogium roseum* (D.Don) Lindl.

オニノヤガラ属 *Gastrodia* R.Br.

クロヤツシロラン *Gastrodia pubilabiata* Y.Sawa

本種は、神奈川県のレッドデータ 2022 (田中ほか, 2022) での指定はない。神奈川県植物誌 2018 (神奈川県植物誌調査会編, 2018) では、県南部の沿海地から多摩丘陵までの内陸部杉林、竹林、ときに広葉樹林に広く点在とされている。腐生ランで、花は地上数 cm の高さで目立たないが、種を付けているときは、30cm 程に伸び目立つ。



図 9. クロヤツシロラン *Gastrodia pubilabiata* Y.Sawa

生田緑地では2011年に種を付けていた状態で見つかったが、花の状態で確認できたのは2018年であった。以前は、複数箇所で見られたが、台風での倒木被害等の影響もあり、激減したこともあり、生息数は安定していない。

ネジバナ属 *Spiranthes* Rich.

ネジバナ *Spiranthes sinensis* (Pers.) Ames var. *amoena* (M.Bieb.) H.Hara

本種は、神奈川県のレッドデータ2022(田中ほか, 2022)での指定ではなく、神奈川県植物誌2018(神奈川県植物誌調査会編, 2018)でも、県内では全域の草地、芝生、道路脇に生え野生ランの中では最も普通に見られるとある。生田緑地でも生息数は多く、複数箇所で群生しており普通に見られる。



図 10. ネジバナ *Spiranthes sinensis* (Pers.) Ames var. *amoena* (M.Bieb.) H.Hara

クモキリソウ属 *Liparis* Rich.

コクラン *Liparis nervosa* (Thunb.) Lindl.

本種は、神奈川県のレッドデータ2022(田中ほか, 2022)での指定はないが、神奈川県



図 11. コクラン *Liparis nervosa* (Thunb.) Lindl.

植物誌2018(神奈川県植物誌調査会編, 2018)では、丹沢、箱根を除いた丘陵から山麓の杉林、竹林、雑木林に広く散在するが少ないとされている。生田緑地での生息数は少なく、1株が数カ所に点在している。本種は常緑であり、株が大きく育った株では実が出来るようにならなかったが、まだ実が割れた状態を確認できていない。

サイハイラン属 *Cremastra* Lindl.

サイハイラン *Cremastra variabilis* (Blume) Nakai

神奈川県のレッドデータ2022(田中ほか, 2022)での指定ではなく、県内ではシイ・カシ帯のやや明るく湿り気の多い樹林内に好んで生え小群落を見る所もある(神奈川県植物誌調査会編, 2018)。

常緑で、花が無い時も1枚の葉を出し続け、生田緑地でも場所によっては群生している。種が割れた状態も確認できており、新しい株が見つかることもある。



図 12. サイハイラン *Cremastra variabilis* (Blume) Nakai

エビネ属 *Calanthe* R.Br.

エビネ *Calanthe discolor* Lindl.

本種は、神奈川県のレッドデータ2022(田中ほか, 2022)で準絶滅危惧種に指定されており、見つかると採取されやすいとされる。県内では広く雑木林、杉林、竹林に散在するが、土地開発や乱獲などにより激減しない(神奈川県植物誌調査会編, 2018)。

常緑で、生田緑地では場所によってまとまって生育していることもあり、種が割れた状態も確認できている。本種は、盗掘被害によって生息数が減少する可能性が高いため、今後も注視していく必要がある。



図 13. エビネ *Calanthe discolor* Lindl.

シュンラン属 *Cymbidium* Sw

シュンラン *Cymbidium goeringii* (Rchb.f.) Rchb.f.

本種について神奈川県のレッドデータ2022(田中ほか, 2022)での指定はないが、県内ではやや明るい乾燥気味の落葉樹林の林床や傾斜地に生えるが、エビネと同じく人為的な絶滅に瀕し少ない(神奈川県植物誌調査会編, 2018)。

常緑で、生田緑地では場所によって群生しているが、大量に盗掘されたことがあるため、エビネと同様に注視していく必要がある。



図 14. シュンラン *Cymbidium goeringii* (Rchb.f.) Rchb.f.

マヤラン *Cymbidium macrorhizon* Lindl.

本種について神奈川県のレッドデータ2022(田中ほか, 2022)での指定はなく、県内ではシイ・カシ帯の全域に散在し、近年は増加傾向にある(神奈川県植物誌調査会編, 2018)とされる。腐生ランであるため、生田緑地での生息数は決して多い状況ではないが、近年は年に数回花を咲いているのを確認できている。



図 15. マヤラン *Cymbidium macrorhizon* Lindl.

サガミラン *Cymbidium nipponicum* (Franch. & Sav.) Rolfe

本種は、神奈川県のレッドデータ2022(田中ほか, 2022)で準絶滅危惧種に指定されており、近縁種のマヤランに比べ、県内での生息地は少ない(神奈川県植物誌調査会編, 2018)。マヤランと同様に腐生ランで、生田緑地では、マヤランより暗いところに咲く傾向にあり、生息数は少なく、点在的に生息している。



図 16. サガミラン *Cymbidium nipponicum* (Franch. & Sav.) Rolfe

謝辞

この度の報告にあたり、特定非営利活動法人かわさき自然調査団植物班の佐藤ミツ子氏、武久春美氏、谷口紀美代氏、田渕まこと氏、林美幸氏、吉田多美枝氏、吉留憲子氏には調査にご協力をいただいた。皆様には、ここに厚く感謝申し上げる。

引用文献

神奈川県植物誌調査会(編), 2018. 神奈川県植物誌 2018. pp. 161-166, 神奈川県植物

誌調査会・神奈川県立生命の星・地球博物館, 小田原.
勝山輝男・田中徳久・木場英久・神奈川県植物誌調査会, 2006. 維管束植物. 高桑正敏・勝山輝男・木場英久編, 神奈川県レッドデータ生物報告書 2006, pp.37-130. 神奈川県立生命の星・地球博物館, 小田原.
田中徳久・勝山輝男・秋山幸也・大西亘・田村淳・山本薰・石田祐子, 2022. 維管束植物. 神奈川県環境農政局緑政部自然

環境保全課・神奈川県立生命の星・地球博物館編, 神奈川県レッドデータブック 2022 植物編, pp. 44-326. 神奈川県, 横浜.
吉田多美枝・佐藤登喜子・吉留憲子・佐崎藤子・佐藤ミツ子・白井美智子・白沢光代・武久春美・谷口紀美代・田渕まこと・林美幸・渡部富子, 2016. 川崎の種子植物相. 川崎市自然環境調査報告 (VIII), 1-34. 川崎市教育委員会・特定非営利活動法人かわさき自然調査団.